

当病院は「経皮的左心耳閉鎖システムを用いた非弁膜症性心房細動患者の塞栓予防の有効性と安全性に関する多施設レジストリー研究：J-LAAO」に参加しています

1. 研究の背景

脳梗塞をはじめとする塞栓症を発症するリスクが高いにも関わらず、長期的抗凝固療法を行うことができない非弁膜症性心房細動患者さんに対する新しい治療法として、経皮的左心耳閉鎖システムを用いた左心耳閉鎖術がわが国でも2019年から保険適応となりました。しかしながら、我が国に限らず世界的にも、この新しい治療法の有効性については明らかとはなっていない点があります。そのため、わが国でこの治療を安全かつ効果的な治療法として実施するために、日本循環器学会を主実施機関として、日本心エコー学会、日本心血管インターベンション治療学会、日本心臓血管外科学会、日本心臓病学会、日本脳卒中学会、日本不整脈心電学会と協力し本治療を受けられた患者さんの治療前後のデータを収集し、本治療法を安全かつ効果的な治療法として患者さんに届けるための礎にすることといたしました。

2. 研究の目的

塞栓症リスクが高いにもかかわらず長期的抗凝固療法を行うことができない非弁膜症性心房細動患者さんで、日本全国の施設で経皮的左心耳閉鎖システムを用いた治療を受けた患者さんを対象に治療前、治療中、治療後のデータを蓄積して、本治療法を安全かつ有効な治療法とするために活用します。

3. 研究の方法

本治療法の実施に当たって、実施施設は患者さんのデータを登録することが学会の定めた施設基準において義務付けられております。

データの登録は治療前、退院時、治療から45日後、6か月後、1年後、2年後、3年後にそれぞれ行います。登録されるデータは症状の程度や服薬内容、血液検査や心エコーなど日常診療の範囲内で当然チェックされる検査項目のみであり、この研究のために追加の検査や治療をすることはありません。

このデータは、日本循環器学会としての集計目的以外に、色々な研究目的で使用を希望される他機関の研究者（研究グループ）にも活用していただくことになっております。その際には、各研究者（研究グループ）が研究計画書を日本循環器学会に申請し、研究の実施が日本循環器学会で承認された場合のみにデータを提供します。

4. この研究によって起こりうる不利益および危険性

この研究は、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を遵守して実施されます。この研究では、実際に行われた医療に関する情報のみを集めますので、治療上の不利益および危険性は特にございません。収集する情報は匿名化していますが、個人情報漏洩の危険性を最小化するために、資料を厳重に管理して対策を行います。

5. この研究参加によってもたらされる利益

今回の研究参加により、すぐに直接的な利益がもたらされる訳ではありませんが、将来、塞栓症リスクが高いにもかかわらず長期的抗凝固療法を行うことができない非弁膜症性心房細動患者さんにおいて、最も適した治療方針を決める上で、あるいは経皮的左心耳閉鎖システムを安全かつ効果的に使用する上で、この研究成果が反映される可能性があります。

6. 個人情報の取り扱いについて

提供された診療情報に関するデータは、個人が特定されないように処理し、データセンターである国立循環器病研究センターへ集められます。集められたデータは日本循環器学会において分析を行います。また、日本循環器学会の審査を通過した研究を実施する研究者（研究グループ）に今回のデータの提供を行う可能性があります。この研究の結果が、学会や医学雑誌などで公表されることがありますが、ここでも個人が特定されないように配慮いたします。研究情報は、国立循環器病研究センターでセキュリティ対策を行った上で厳重に管理いたします。登録情報は、本レジストリー事業の終了について報告された日から5年を経過した日、又は本レジストリー事業の結果の最終の公表について報告された日から3年を経過した日のいずれか遅い日以降に専用のソフトウェアで削除されます。

7. この研究に関する情報の提供について

この研究の実施中に、安全性にかかわることや、研究参加を続ける上で重要だと思われる情報が得られた場合には、すみやかに公表いたします。

またこの研究計画や関連資料をお知りになりたい場合は提示いたします。

8. 費用負担について

この研究に関する費用は、日本循環器学会の資金によって支払われます。日本循環器学会は、様々な外部の団体からの寄付を受けて運営されていますが、その中に経皮的左心耳閉鎖システムの一つである「Watchman®」を販売するボストン・サイエンティフィックジャパン（株）も含まれています。日本循環器学会として登録されたデータの集計や発表を行う際に、同社が関与することはありません。登録されたデータの使用を認められた他機関の研究者（研究グループ）の研究に必要な費用は、各研究者（研究グループ）が自ら調達します。この研究者（研究グループ）の中にはボストン・サイエンティフィックジャパン（株）をはじめとする医療関係企業から寄付や講演謝金などを受け取っている場合も想定されますので、研究申請の際に利益相反状態自己申告用紙を合わせて提出することを義務付けます。

治療の費用は患者さんのご負担となり、研究に協力したからと言って通常の診療を受けたときと治療費が変わることはありません。

9. この研究の成果はだれのものか

この研究から何らかの成果が生まれ、知的所有権（人の考えた事が、社会的に価値があると認められ、そこにお金が発生する事）が生じる可能性があります。日本循環器学会が登録されたデータの集計を行うことで生じる知的所有権は、日本循環器学会に帰属します。登録されたデータを使用し他機関の研究者（研究グループ）が研究を行った結果として生じる知的所有権は、研究者（研究

グループ)あるいはその所属機関に帰属します。

10. 研究の実施体制

主任研究者

小室一成 日本循環器学会代表理事 (東京大学・大学院医学系研究科・循環器内科・教授)

11. 研究事務局

この研究に関して聞きたいことがありましたら、以下の担当者にお問い合わせください。

研究事務局

住所：〒100-0011 東京都千代田区内幸町 1-1-1 帝国ホテルタワー18 階

機関名：一般社団法人 日本循環器学会

Tel：03-5501-0862

Fax：03-5501-9855

E-mail：meeting@j-circ.or.jp

12. 当院での研究体制

なお、この研究の対象者となることを希望されない場合は、下記へお申し出ください。

その場合でも診療上の不利益が生じることはありません。

研究責任者：済生会熊本病院 循環器内科 部長 坂本知浩

研究担当者：済生会熊本病院 循環器内科 主任医員 岡松秀治

住所：〒861-4193 熊本市南区近見 5-3-1 済生会熊本病院

連絡先：月曜～金曜 8：30～17：00

096-351-8513 (循環器内科医局)